

“ ご入園・ご進級

おめでとうございます”

園長 高杉 洋史



4月5日朝幼稚園の庭にて撮影

春が来ました。桜もチューリップも菜の花も花盛り、その中で入園式を迎えることができます。特にチューリップは入園式を指して球根を植えるのですが、うまくいかないことがほとんどです。今年は厳冬のおかげで、ピツタリのタイミングです。

玄海ゆりの樹幼稚園から玄海東小学校に続く道に立派な五本の桜があります。何年か前の小学生の卒業記念樹です。先人の行為で今の私たちが楽しませていただくことができ、うれしいことです。ところでこの桜は東から西に向かって五本並んでいて、一番西の桜が最初に開花します。次が一番東の桜です。真ん中の三本は少し遅れて満開を迎えます。幼稚園教諭の何人かに聞いてみました。「どうして一番西の桜が毎年一番に咲くのだろうか？」活発な返事が返ってきました。日当りのこと、両側は空間的余裕があること、肥料のこと、風当たりのこと、そして木の大きさのこと。本当の答えはいろいろな要素の組み合わせなのでしょうが、いろいろ考えることが楽しいです。さて本題です。子どもたちはこの「なぜ? どうして?」が大好きです。特に三歳になるかならないかのころの子どもたちの質問は活発ですね。私たち大人でも世の中のことをすべて知っているわけではありません。子どもたちと一緒に考える態度が子どもを育てる栄養と思えば、忙しさはちよっただけ横に置いて、子どもたちと考える楽しさ、

会話の楽しさを味わっていただけというらしいです。教育の原点はこのあたりにあると思います。

さて園長からの第二問、チューリップはどうして赤い花から咲くのだろうか?

子どもたちと会話を楽しめる時や食事の時、姿勢にも気をつけていただけると助かります。宗像市の小学校は毎月十日が学校の日で、私も時々特に一年生の教室にお邪魔します。そうしますと中にほんの数人机にうつぶせの子が目につきます。背骨をまっすぐ維持する体が出来上がっていないようです。幼児期に力いっぱい走り回ったり、友だちと戯れあったりの時間が足りなかったのかなと考えてしまいます。

バツタ採りやジャガイモ掘りは科学教育で大切なだけでなく、生きる力として大切なのだということをアピールしたい園長の気持ちが保護者の皆様に伝わりますように。

